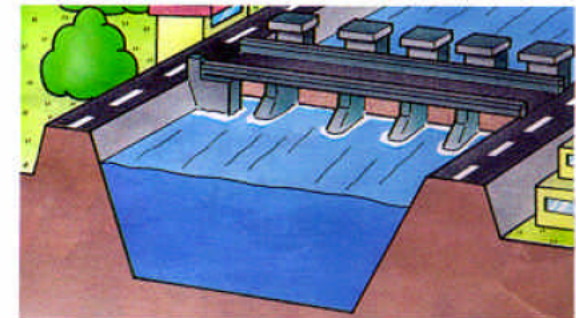
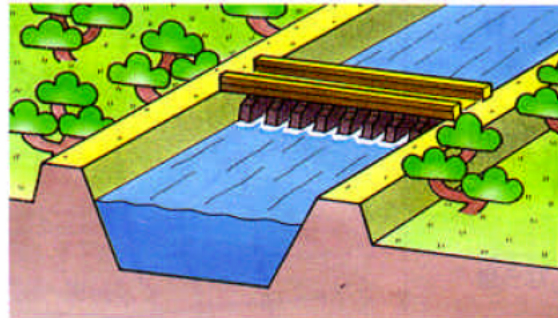
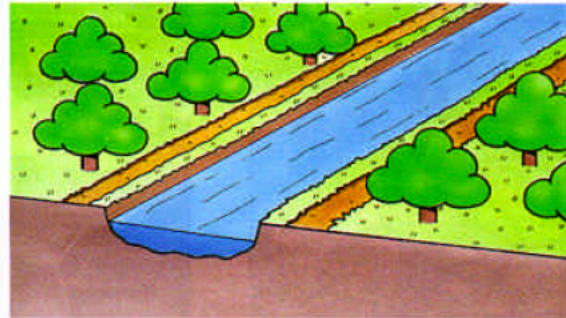


## 参2.3 降雨量と流量の関係

### 参2.3.3 琵琶湖洪水(治水)の歴史

#### 【なぜ洪水が起きるのか】

琵琶湖には120本の一級河川が流れ込んでおり、大洪水では流入量が毎秒10,000m<sup>3</sup>程度に達します。出て行く川は瀬田川だけであり、琵琶湖から流せる水量は、現在毎秒700m<sup>3</sup>(琵琶湖水位 0m時)程度です。



洗堰設置前

洗堰設置後

淀川河水統制  
第1期事業後

淀川水系改修  
基本計画後

琵琶湖総合開  
発後

1903年以前

1903～1952年

1953～1967年

1968～1991年

1992年から現在

毎秒 50m<sup>3</sup>

毎秒 200m<sup>3</sup>

毎秒 400m<sup>3</sup>

毎秒 600m<sup>3</sup>

毎秒 700m<sup>3</sup>

## 参2.3 降雨量と流量の関係

### 参2.3.3 琵琶湖洪水(治水)の歴史

#### 【先人が取組んだこと】

##### 明治以前の改修

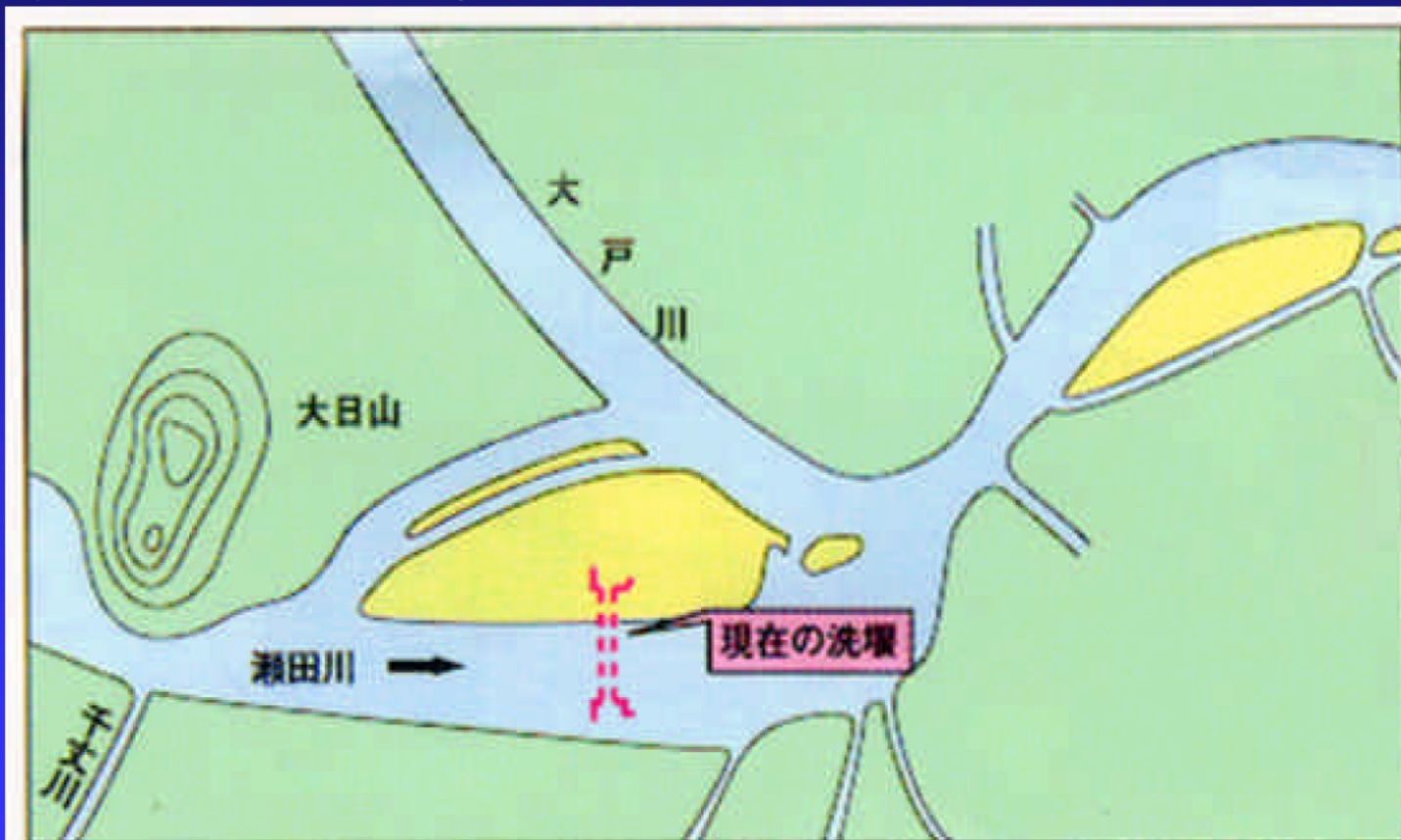
- 古くは僧行基が流れの妨げになる大日山改削を試みるが、断念。
- 江戸時代は、琵琶湖沿岸農民のたび重なる請願にもかかわらず、軍事上の理由で浚渫が進みませんでした。
- シジミ取り船がシジミ取りにことよせて、川底を掘るようになりました。

## 参2.3 降雨量と流量の関係

### 参2.3.3 琵琶湖洪水(治水)の歴史

#### 【先人が取組んだこと】

瀬田川は、大日山の狭窄部、大戸川の流出土砂の堆積により、川の流れが悪かった。



●明治改修前の瀬田川地形図

## 参2.3 降雨量と流量の関係

### 参2.3.3 琵琶湖洪水(治水)の歴史

#### 【先人が取組んだこと】

#### 明治以降の改修

明治18年の洪水ののち、瀬田川改修をめぐって琵琶湖沿岸住民と、下流淀川沿岸住民とが衝突。

明治24年～明治28年にかけて、瀬田川改修と洗堰設置を含む淀川改良工事の計画が立案されました。

明治29年に未曾有の大洪水に見舞われ、琵琶湖最高水位は3.76mに達し、大災害となりました。



参2.3 降雨量と流量の関係  
参2.3.3 琵琶湖洪水(治水)の歴史  
【先人が取組んだこと】

■ 明治29年 未曾有の大洪水が発生

琵琶湖水位は3.76mに達し、  
琵琶湖周辺は約2万8千戸  
の家屋と約1万6千haを超  
える範囲が浸水して浸水  
日数は237日に及びました。



## 参2.3 降雨量と流量の関係

### 参2.3.3 琵琶湖洪水(治水)の歴史

#### 【先人が取組んだこと】

#### ■ 治水の歴史

##### 明治以後の改修

明治29年の大洪水後、瀬田川は本格的な改修に着手されました。

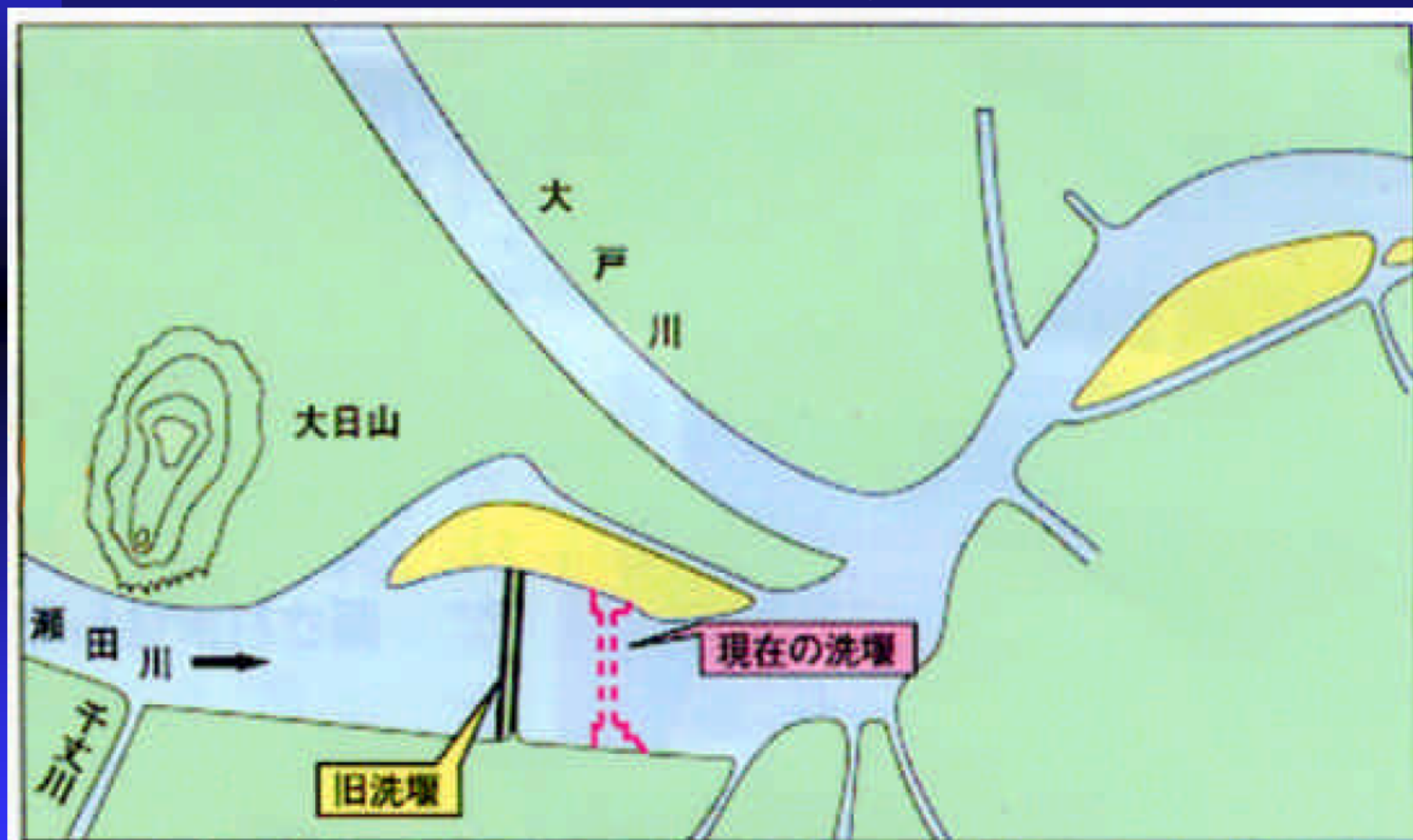
- 大日山切り取り(明治34年)
- 瀬田川の浚渫
- 旧洗堰(南郷洗堰)(明治36年)
- 大戸川付替え(昭和27年)
- 現洗堰の建設(昭和36年)

## 参2.3 降雨量と流量の関係

### 参2.3.3 琵琶湖洪水(治水)の歴史

#### 【先人が取組んだこと】

大日山の切取り、瀬田川の浚渫により、流下能力が向上しました。



●明治改修後の瀬田川地形図



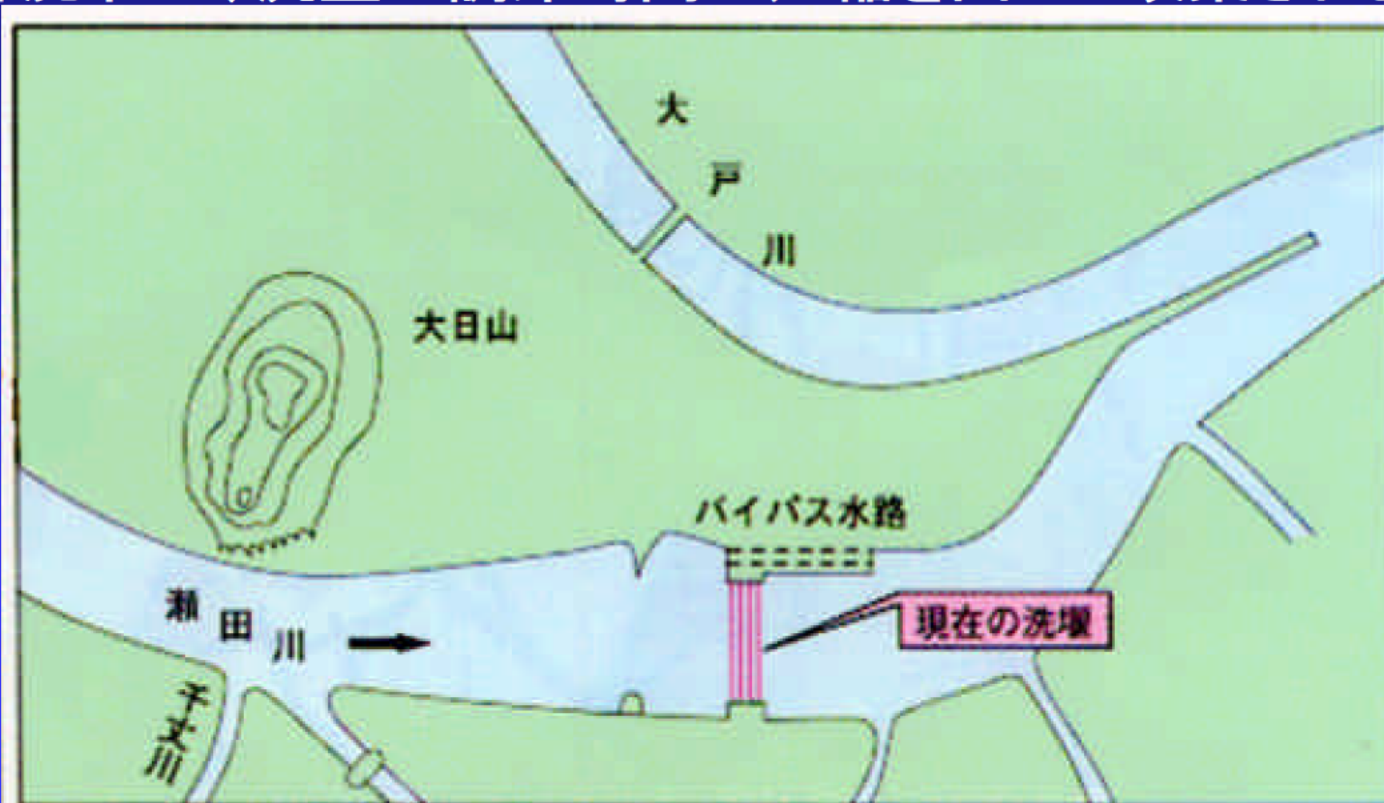
## 参2.3 降雨量と流量の関係

### 参2.3.3 琵琶湖洪水(治水)の歴史

#### 【先人が取組んだこと】

さらに大戸川の付替え、瀬田川の浚渫が実施され、流下能力向上が図られました。

南郷洗堰は、流量の調節時間の短縮を図って改築されました。



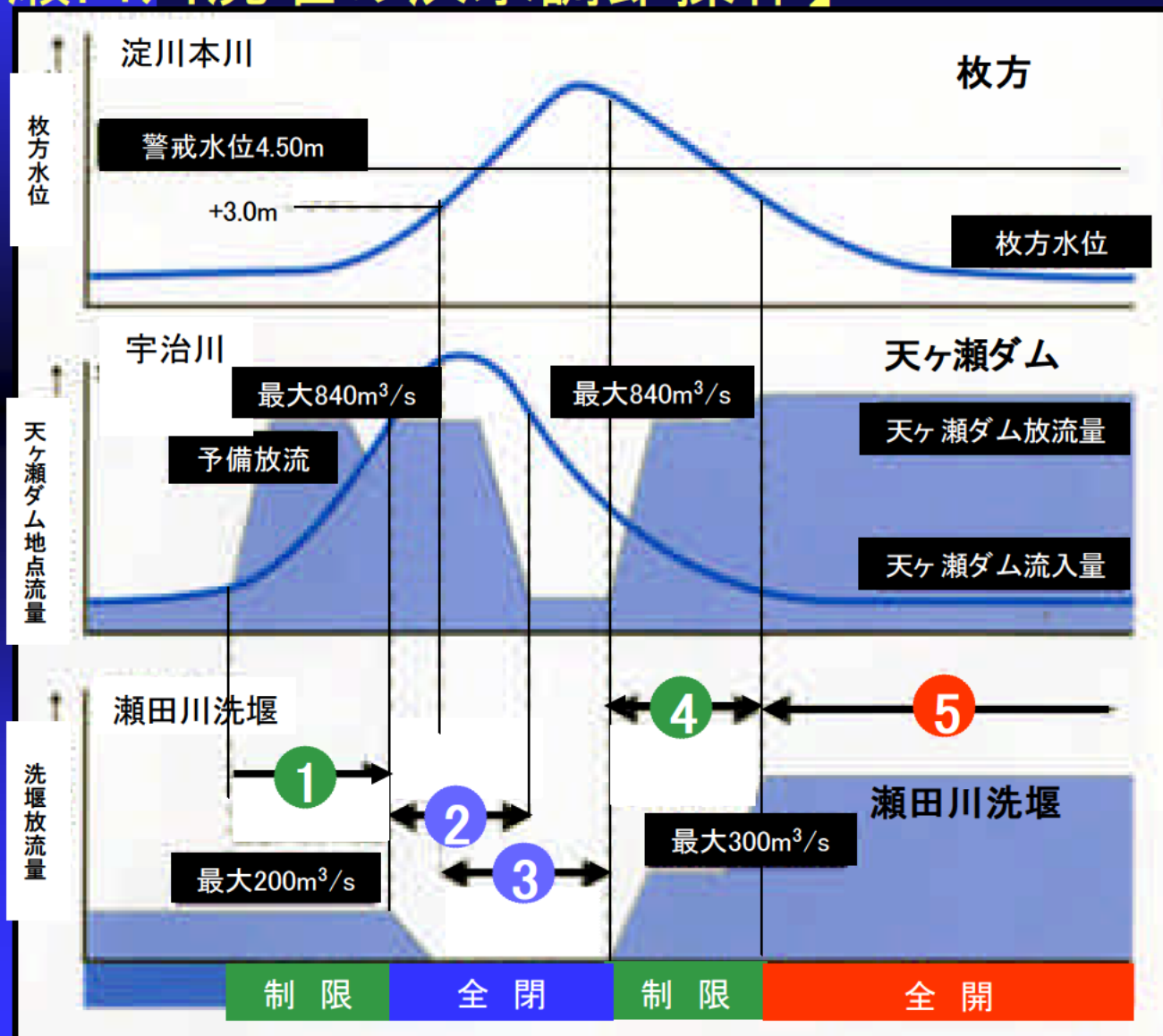
●現在の瀬田川地形図



## 参2.3 降雨量と流量の関係

### 参2.3.3 琵琶湖洪水(治水)の歴史

#### 【瀬田川洗堰の洪水調節操作】



1 天ヶ瀬ダム予備放流のための制限

2 宇治川のための全閉

3 淀川本川のための全閉

4 天ヶ瀬ダム水位低下のための制限

5 全開